

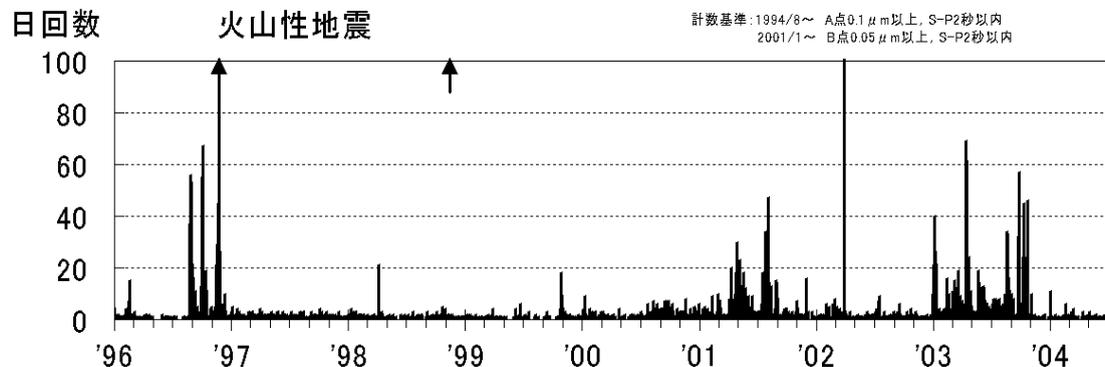
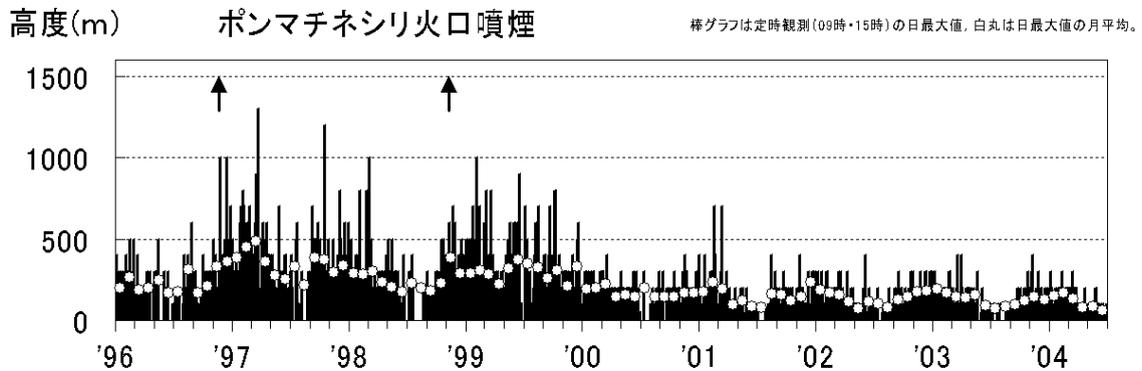
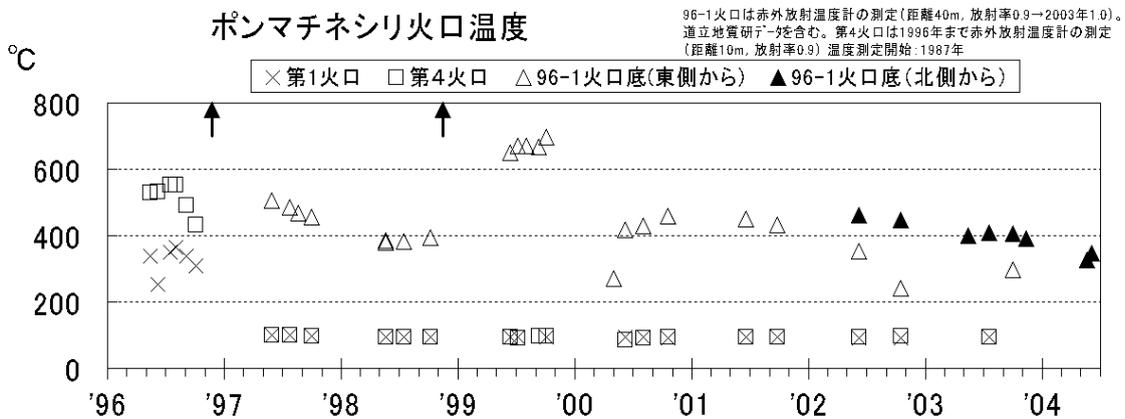
# 雌阿寒岳

## 1 概況

火山活動はやや活発な状態が続いています。  
 ポンマチネシリ 96-1 火口ではこれまで同様高温の状態が続いています。  
 噴煙はやや少なく、火山性地震も少ない状態が続いています。

## 2 噴煙の状況

今期間のポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m以下で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



最近の火山活動経過図(1996年1月1日~2004年6月30日) 印は噴火

3 地震および微動の発生状況

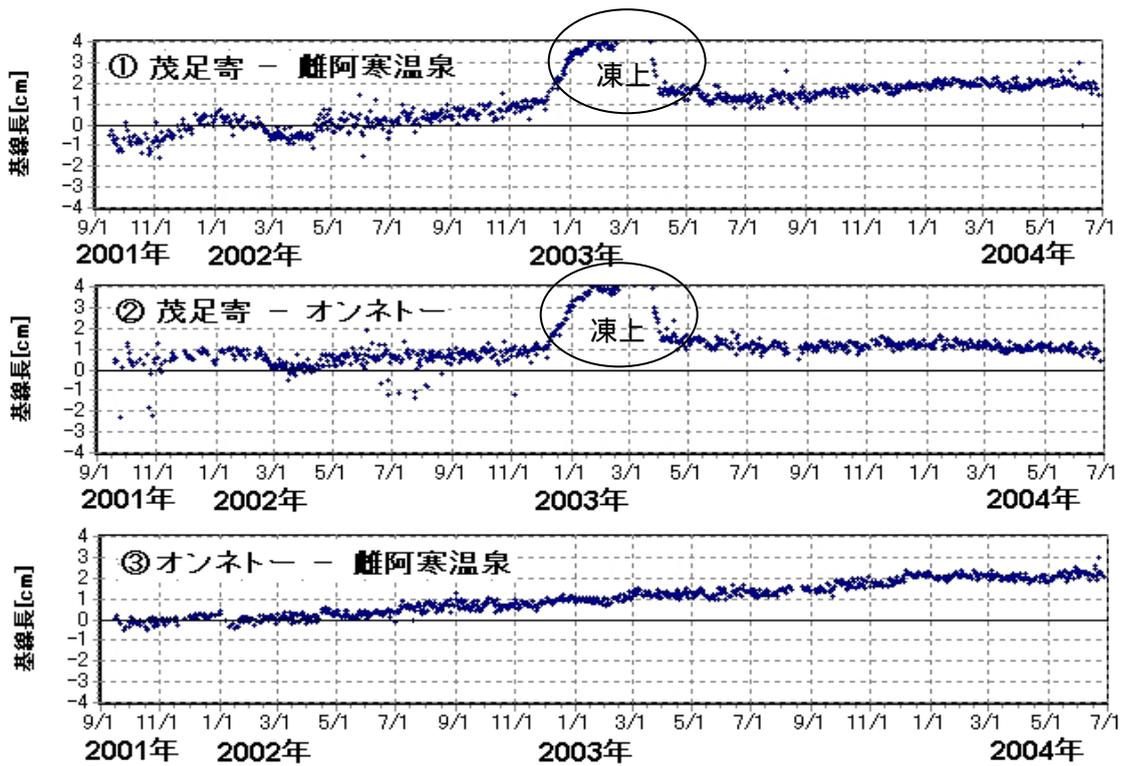
今期間の火山性地震の回数は1日あたり0~3回で、昨年11月以降少ない状態が続いています。火山性微動は昨年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(B点)

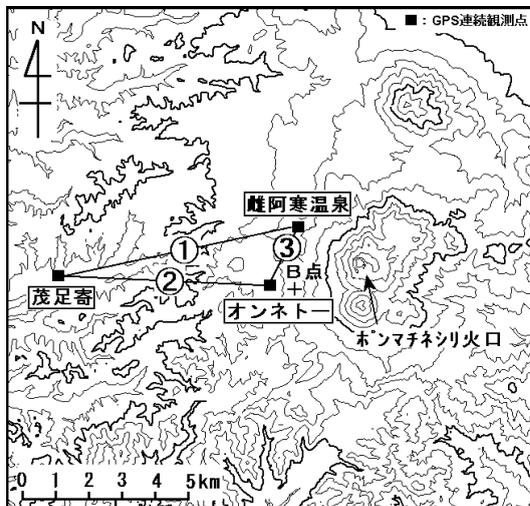
2003~2004年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数	113	195	156	352	19	12	19	20	17	15	16	17
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

西麓でのGPS連続観測では、やや伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



基線長変化(2001年9月19日~2004年6月30日)



5 調査観測の結果

6 月 4 日～10 日に実施した調査観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口の温度は約 350 で、前回（約 400 ：昨年 10 月）に比べて数 10 低下しましたが、依然として 300 以上の高温状態が続いています。その他の火口も前回の状況と比べて大きな変化はありませんでした。

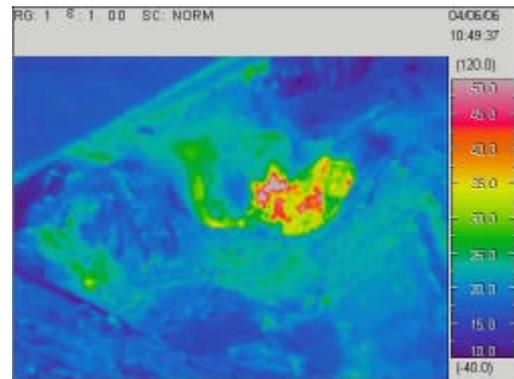
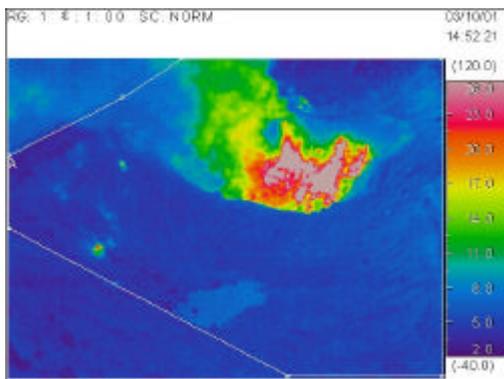
【ポンマチネシリ火口】

・96-1 火口

火口底の噴出口から高温の火山ガスが噴出していました。96-1 火口の北側火口縁からの赤外放射温度計\* による測定では約 350 でした。噴出の強さや火山ガス濃度には前回と比べて特に変化はありませんでした。観測時の湿度が低かったため、噴煙には白色部分が少なく、やや青味を帯びた状態となっていました。赤外熱映像装置\* による火口内の温度分布の観測の結果、高温部分の拡大は認められませんでした。



96-1 火口底の状況（北側から撮影）



赤外熱映像装置による 96-1 火口および第 1 火口内部の表面温度分布  
（左：2003 年 10 月 1 日 右：2004 年 6 月 6 日）

- ・赤沼西方噴気孔  
噴気の量は少ないですが、明瞭な音を伴い勢いよく噴出していました。噴気孔周辺の変色域や高温域の範囲は前回と比べて大きな変化は見られませんでした。
- ・その他の火口  
第1火口、第3火口、第4火口では弱い噴気や変色域が認められていますが、前回と比べて大きな変化は見られませんでした。



赤沼西方噴気孔(東側から撮影)

【中マチネシリ】

火口内部には多数の噴気孔が存在しており、噴気の勢いは強く、熱泥水噴出も見られました。噴気にはやや強い刺激臭が認められました。火口内の熱活動の状況は、前回と比べて大きな変化は見られませんでした。

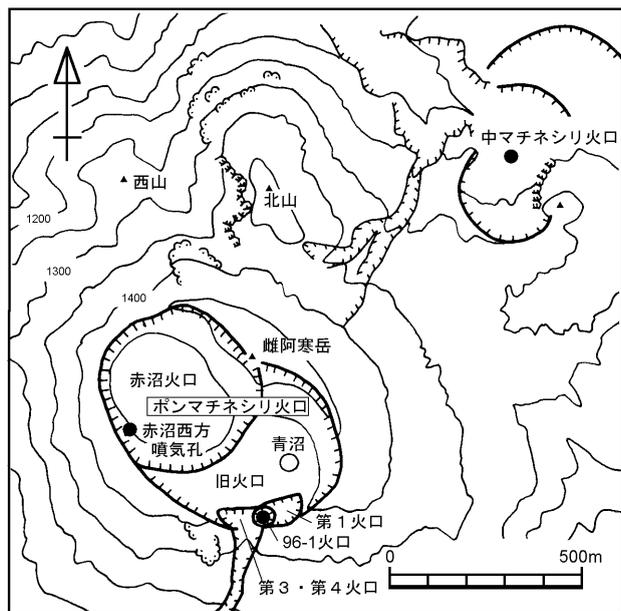


中マチネシリ(山頂から撮影)

6 上空からの観測結果

6月2日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ96-1火口、赤沼西方噴気孔および中マチネシリから白色噴煙が上がっていましたが、噴煙の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置による温度分布の観測では、地熱域に拡大などの変化は見られませんでした。

- \* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



雌阿寒岳火口周辺図